

確率荷重の移送についての一考察

プロスペクト理論はリスク下の意思決定の記述的理論としてよく知られている。プロスペクト理論は規範理論としての期待効用理論では説明できないことが知られるクジ比較問題における現実の選択パターンを、確率荷重関数と価値関数の組み合わせを用いて説明する代替的理論として提案され、アレのパラドックスに代表される期待効用理論の違反を説明する。一方、Birnbaum らの TAX 理論は、プロスペクト理論ではうまく説明できない第 1 階確率支配への違反の事例に対しても、認知的資源たる注意の移送に着目した確率加重を用いて説明できるということを主張する。また最近、筆者はクジ比較を構成する事象のマッチングとゲームとして概念的にモデル化し、またセルオートマトンを用いた計算的モデル化によってそのシミュレーション実験を行い、期待効用理論の反例のいくつかを再現することを確かめた。本報告ではセルオートマトンモデルの背景になっていたクジ構成事象間のマッチングとゲームの概念に基づき、確率荷重の移送を定式化し、アレの背理における共通結果効果や共通比効果を解釈することを試みた。